

4. フリー株式会社

freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧

フリー(株) freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧

企業名	フリー株式会社
機器・サービス名	freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧
問合せ先	freee 合理的配慮お問い合わせ窓口 (メールアドレス disability-support/atmark/freee.co.jp) (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本スマートフォンアプリは、高齢者・障害者を含めた企業や組織で働く従業員が、日々の打刻や勤怠入力、給与明細の確認等の日常的な作業をスマートフォンで行う場面において、手元で簡単に操作することができます。※Web利用による障害当事者の管理業務実績あり
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 日々の出勤打刻、勤怠修正:スマートフォンアプリのトップ画面から簡単に日々の出勤打刻をすることができます。打刻を忘れた時や修正したい時は、画面に従って入力することで正しい勤怠情報に変更することが可能です。 ● 給与明細、賞与明細の確認:配布された給与明細や賞与明細を確認できます。 ● 年末調整の提出、申請や承認依頼の処理:労務担当者からの年末調整の提出依頼や、身上変更の届出などの依頼をすることができます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● VoiceOver/TalkBackへの対応:全ての情報の閲覧・操作がスクリーンリーダーで行えます。紙では内容確認や作業が困難な場合でも、本アプリであれば業務が行えます。 ● 文字サイズ・ボタンサイズへの配慮:目の不自由な方や指が震える等の特徴を持っている方も、精密なタップができるよう配慮しています。 ● 外国語への対応:外国人労働者を雇用している事業所でも活用できるよう、OSの言語設定を判別し、アプリ内のテキストを日本語版・英語版に切り替えることができます。

フリー(株) freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧



打刻画面



勤怠カレンダー画面



給与明細画面

フリー(株) freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧

当事者ニーズを
踏まえた開発

- 視覚障害当事者かつアクセシビリティ専門家のメンバーと共に、WCAGベースのアクセシビリティガイドラインおよびチェックリストを開発・運用
- 当該ガイドラインおよびチェックリストに則り、製品開発チームごとにチェックを実施
- そのチェック結果の妥当性を前述の専門家とともに週次レビュー
- 全盲の障害当事者によるスクリーンリーダーチェックおよび改善点の起票を実施
- freee社内でfreee製品を実際に使用。freee社内には障害当事者が複数名在籍しており、社内ユーザーからのフィードバックにより製品改善に取り組んでいる
- 障害当事者による利用事例の積極的な把握を行い、同時に事例記事化してウェブで公開

企業としての
組織的な取組

- アクセシビリティ専任メンバーの存在
- 全社員向けに、入社時にアクセシビリティオンボーディングを実施
- アクセシビリティを考慮したデザイン・実装コンポーネントの作成
- アクセシビリティガイドライン・チェックリストの制定と公開
- ガイドライン・チェックリストの全プロダクトでの運用
- 合理的配慮の対応方針および問い合わせ窓口の設置

参考:[アクセシビリティ | freee](#)

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 勤怠管理は、毎日の繰り返し作業になるので、自らできることが望ましい。日々の打刻や勤怠入力、給与明細の確認等のシステムに当事者も自ら入力できる試みは素晴らしい。
- 幅広い障害の社員を想定して開発している点が評価できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 全盲者向けに読み上げ機能を有している。また、弱視者向けに使用頻度の高い数字やボタンを大きくし、扱いやすくしている等、今まで自力操作/確認ができなかった視覚障害者にとっても使いやすい配慮がされている。また、外国人に対応し、OSの言語設定を反映できるようにしている。
- 肢体不自由の方への対応として、指の震え等にも配慮した製品開発への取組を行っている。
- 人事労務関係で知的障害、運動機能障害など障害種にかかわらずアプリを利用できるようアクセシビリティに配慮し、すでに実用実績を有している点、またその管理業務を担う障害者による利用実績も有している点が評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 障害のある社員の意見を反映し、また、開発・更新にも参加を得てシステムを開発している。
- WCAGベースの自社アクセシビリティガイドラインを使用し、全盲当事者による検証をもとに改善をしている。
- 様々な障害種のある社員を採用していることを強みとして生かしてデザインの段階から非常にアクセシビリティを意識した開発を進めている。

3 企業としての取組について、優れている点

- 企業全体としてアクセシビリティ対応を徹底して製品開発する姿勢を有している。
 - ✓ WCAGベースのガイドライン・チェックリストを設け、公開。
 - ✓ アクセシビリティ問題が発生しにくいパーツを開発して、それを組み合わせて製品化することでアクセシビリティ問題を抑制する開発戦略をとっている。
 - ✓ 社内チェックリストの作成や、全職種の全メンバーを対象とした社員全員に対するアクセシビリティ研修を実施。
 - ✓ 合理的配慮の問い合わせ窓口および様々な部署で構成された合理的配慮委員会を設けて、個別の対応について議論する場を用意。また、これにより、いわゆる特定の部署への依存状態を作らず、会社全体であらゆる段階から取り組んでいくプロジェクト的な体制の整備につながっている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 人事労務アプリの運用に関して残されている課題が明らかになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 操作に熟練した専門家だけではなく、初心者の障害のあるユーザーなども含めたテストを期待する。
- 貴社の製品ごとに、VoiceOver、NVDA、Talkbackへの対応が異なっているが、一貫性確保を期待する。
- システムの評価について、視覚障害者向けのビジネス技能訓練施設と連携することを期待する。
- 人事労務をスマートフォンで対応できる点は従業員の利便性にとっても有効と評価できるが、障害特性にしっかり適応し、部分的対応を改善されることを期待する。